



住宅

〈第三種郵便物認可〉

第 2155 号

ブランドの確立を

フージャースコーポレーション 廣岡哲也社長に聞く

9月1日付けで東証一部上場を果たしたフージャースコーポレーション。会社設立からわずか9年9カ月という異例のスピード上場だ。勝ち組となるための戦略、方針とは——今週と次号にわたり、同社の役員インタビュをお送りする。今回は廣岡哲也社長。「マンション事業は決して優しい道ではない。新規事業でもうではない」と、分譲マンション事業特化を強調する。

(聞き手・中川基晴記者)



——東証一部上場の感想を

「会社設立から9年9カ月という短い期間で実現することができたが、一部上場企業の名に恥じない企業になるべく、今は大変緊張している。これまでの慣習にとらわれないこと、お客様だけを見てきちゃってこ

1部上場は通過点 あくまでマンション特化

・高専有面積物件について引き続き邁進していきたい。いまのところ新規だと思っている。私も、事業は一切行わない方針で、今後も分譲マンション特化で業績を伸ばしていきたい。もう一つが『約束を守る』感謝の気持ちを忘れない」といった当たり前のことをするということだ。当たり前のことでも、それが積み重なって会社の信用につながる。いくものだと思っている。

「ターゲットをしつかり絞り込み、その顧客が満足しているかどうか。その仮説の構築が綿密かつでないかにかかっていると思う」

——日頃、社員の皆さんに言っていることは何ですか

「入社時の面接や入社後にも言っているが、高品質なマンションならフージャース」と言われよう。分譲マンション事業が好きな理由をこう述べている。

「安くて、広くて、将来的な会社像としてはどういったものをお持ちですか

経常利益ベースでほぼ70%ずつアップしてきており、今期も74%のアップを予定している。ただ今後はこれほどのアップは

「入社時の面接や入社後にも言っているが、高品質なマンションならフージャース」と言われよう。分譲マンション事業が好きな理由をこう述べている。

「安くて、広くて、将来的な会社像としてはどういったものをお持ちですか

年30%の「経常」成長目指す

客第一主義の徹底が今の（マンションの）順調な売れ行きにつながっているのだと思っている

——今後の中長期的な業績目標は

「この先毎年、

難しいだろうから年30%アップの成長を目指している」

——事業戦略について

「基本的には現在、好評いただいている千葉、埼玉での大規模・低価格

「マンション事業は決して優しい道ではなく、新規事業でもうではない。今後も売れ続ける商品を作ることに邁進していきたい」



株式会社

フージャースコーポレーション

Hoosiers